

内容：T字型の知識体系

自らの専門性と環境の関係と、活用方法の理解

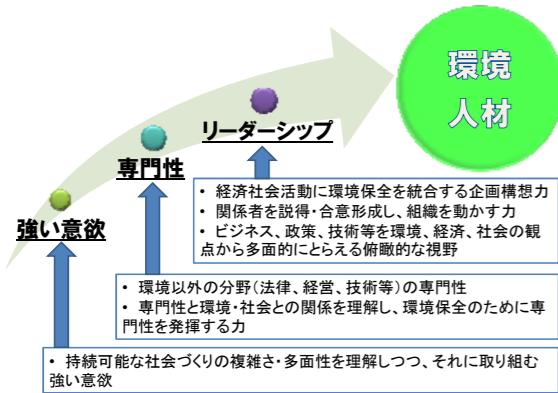
一定程度の持続可能性に関する視点からの俯瞰力

法、経営、技術等の専門性の深さ、専門分野での強さ

・アジアの企業、開発の現場で真に必要なとされる内容の明確化
・副専攻等の活用

環境省「アジア環境人材育成ビジョン」

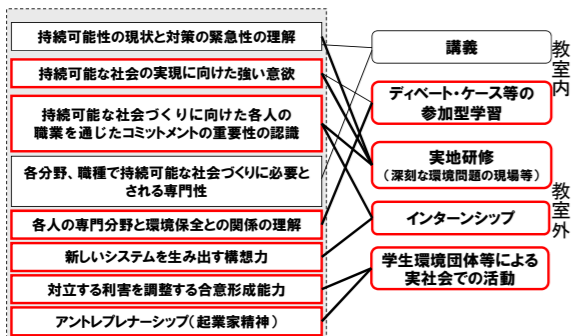
環境人材に求められる3大要素



モデルプログラム開発・普及

- 強い意欲** 大学1, 2年を想定
- 環境悪化の現場やそれに苦しむ患者等との意見交換を通じ、環境問題の実態や人間社会に与える影響の基大さを体感(現地見学/ロールプレイ等)
 - 地球環境問題等の科学的知識を得る講義・グループワーク
- T字型専門性** 大学3, 4年を想定
- 環境問題を理解し、各自の専門の視点から環境保全に貢献する方策を企画構想するのに必要な技能の習得(講義、実験、演習等)
 - 環境・社会・経済の統合的向上という容易な解のない問題への態度やスキル習得(ロールプレイ、ケーススタディ等。アジアの学生との実施)
- リーダーシップ** 大学院を想定
- 問題解決型フィールドワーク、インターンシップ

手法・場所：参加型、問題解決型、現場活用型



環境省「アジア環境人材育成ビジョン」

環境ESDカリキュラムの目的（育成人材像）

1. 自然環境、社会・文化と経済の3つの視点に立って俯瞰的に現状をみる力を育成する、(ESDの基本的な視点)
2. 自ら地域に出向き、地域から地球規模の環境の諸問題について自ら気づく能力の育成(課題発見能力の育成)
3. グローカル精神に基づき、その問題についてさまざまな方向から考察して問題の解決に取り組むことのできる知識と技能を育成する(問題解決能力)
4. 地域のさまざまな意志決定レベルを通して問題を解決しかつ新しい価値を創造することに積極的に働きかけることのできる態度を育成する(社会参画意識の育成)

